

# Sx500シリーズスタックブルスイッチのSmartport設定

## 目的

Smartportは、組み込み（またはユーザ定義）マクロを適用できるインターフェイスです。これらのマクロは、通信要件をサポートし、さまざまなタイプのネットワークデバイスの機能を利用するようにスイッチをすばやく設定する手段を提供するように設計されています。インターフェイスがIP Phone、プリンタ、またはルータやアクセスポイント(AP)に接続されている場合、ネットワークアクセスとQoSの要件は異なります。

この記事では、Sx500シリーズスタックブルスイッチのSmartportの設定方法について説明します。

## 該当するデバイス

- Sx500シリーズスタックブルスイッチ

## [Software Version]

- 1.3.0.62

## Smartportの設定手順

ステップ1: Web設定ユーティリティにログインし、[Smartport] > [Properties]を選択します。[プロパティ]ページが開きます。

ステップ2: 次のパラメータを設定します。

- [Administrative Auto Smartport]: オプションボタンをクリックして、Auto Smartportをグロー

バルに有効または無効にします。次のオプションを使用できます。

- Disable : スイッチでSmartportを無効にします。
- Enable:Smartport機能を手動で有効にします。
- Auto Voice VLANによる有効化 : Auto Voice VLANが設定されている場合、Smartportの機能がオンになります。これはデフォルト設定です。

- [Auto Smartport Device Detection Method] : 着信CDP、LLDP、またはその両方のタイプのパケットが、接続されているデバイスのSmartportタイプの検出に使用されているかどうかをチェックします。Auto Smartportでデバイスを識別するには、少なくとも1つをチェックする必要があります。

- CDP: Cisco Discovery Protocol(CDP)は、直接接続されたシスコデバイスに関する情報を共有するために使用される、シスコ独自のデータリンクプロトコルです。

- LLDP: Link Layer Discovery Protocol(LLDP)は、ネットワークデバイスがネイバーデバイスにIDをアドバタイズするために使用する、ベンダーに依存しないプロトコルです。

- Auto Smartport Device Detection: Auto SmartportがインターフェイスにSmartportタイプを割り当てることができるデバイスのタイプごとに、チェックボックスをオンにします。オフにすると、Auto SmartportはそのSmartportタイプをインターフェイスに割り当てません。
  - Host — LLDP機能を備えたユーザPCまたはラップトップ。
  - IP Phone: CDPまたはLLDP対応IP Phone。
  - IP Phone + Desktop : デスクトップにインストールされたIP PhoneまたはSoft IP Phone。
  - スイッチ : CDPまたはLLDP対応スイッチ。
  - ルータ : CDPまたはLLDP機能が有効になっているレイヤ3デバイス。
  - ワイヤレスアクセスポイント : CDPまたはLLDP機能を備えたレイヤ2またはレイヤ3ワイヤレスアクセスポイント。

- [Operational CDP Status] : デフォルトでは有効になっています。CDPの動作ステータスが表示されます。CDPプロパティの詳細については、
- Sx500シリーズスタックブルスイッチのCisco Discovery Protocol(CDP)プロパティ設定。
- [Operational LLDP Status] : デフォルトでは有効です。LLDPの動作ステータスが表示されます。LLDPプロパティの詳細については、次の記事を参照してください。

Sx500シリーズスタックブルスイッチのLink Layer Discovery Protocol(LLDP)プロパティの設定。

ステップ3:[Apply]をクリックして変更を保存します。これにより、スイッチのグローバルSmartportパラメータが設定されます。

## この記事に関連するビデオを表示...

[シスコのその他のテクニカルトークを表示するには、ここをクリックしてください](#)